

港湾振興便り



2014. 8

第88号

:~

目次

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

- 1 ポートエッセイ ー夏花火は日本人の魂?!ー
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 留萌港に大型客船2隻が同時に寄港しました！
(留萌市 地域振興部 経済港湾課)
- 海の貴婦人 帆船「海王丸」が蒲郡に寄港しました！
(蒲郡市 企画部 企画広報課)
- 首都直下地震に備えて日本自動車連盟(J A F)神奈川支部と協定を締結しました
(関東地方整備局)
- 「2014 発見! 酒田みなとの探検隊」が開催されました！
(山形県港湾事務所)
- 「おなはま海遊祭」が開催されました！
(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ ー夏花火は日本人の魂?!ー

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

夏祭りが各地で開かれている。夏の祭りに欠かせないのが花火だろう。先日は「日本三大花火」の一つと言われる新潟県長岡市の大花火大会が開かれ、会場の信濃川河畔は2日間で過去最高の103万人が「川花火」の魅力堪能した。

長岡花火は3尺玉やワイドスターメインが呼び物だが、今年は特別の意味があった、大きな被害を引き起こした中越大地震から10年の節目だったからだ。長岡市は花火に鎮魂と復興の願いを込めて「フェニックス」という超ワイドスターメインを上げてきており、今年も例年以上に多くのフェニックスが夜空に羽ばたいた。

新潟県は花火どころだ。他にも尺玉100連発と水中花火が人気の柏崎「海花火」、日本最大4尺玉で知られる小千谷・片貝「山花火」が有名だが、「街花火」の新潟市もなかなかのものと自負している。長岡の花火大会でも新潟市の煙火師が中心的役割を果たしており、花火づくりのレベルは高い。残念ながら会場の信濃川が埋め立てによって川幅が狭まりやや小粒になったが、まちなかで「日本一見やすい」花火大会と自負している。

去年は新潟まつりの期間中、3夜連続で花火を打ち上げた。初日が大民謡流しの終わりに景気づけの大スターメイン。2日目は音楽に合わせた花火ショー。最終日がナイアガラやワイドスターメイン「エボリューション」(進化)である。花火効果もあって去年は祭り全体では過去最高の人出、95万2千人を記録した。

今年は台風に気を揉みながら、3夜連続スターメインが打ち上がることを祈って、この原稿を書いている。各地の夏祭りが盛況裡に終わり、それが景気の盛り上げにつながるといいのだが…。

*:

2 トピック

*:

●留萌港に大型客船2隻が同時に寄港しました！

留萌市 地域振興部 経済港湾課

7月13日(日)に大型客船「にっぽん丸」(22,472トン)と「飛鳥Ⅱ」(50,14トン)が留萌港に寄港しました。留萌港に大型客船2隻が同時に寄港するのは初めてで、当日は歓迎セレモニーや物産店、市民見学会などが行われました。

「にっぽん丸」は12日に約250人の乗客を乗せて酒田港を出港し、留萌港に午前7時に接岸、「飛鳥Ⅱ」は約700人の乗客を乗せて11日朝に博多港を出港し、午前1時に接岸しました。

両船の入港を留萌高校吹奏学部の演奏が出迎え、セレモニーでは市長の高橋定敏から、「留萌は数の子、お米が大変おいしい。そして港町の人情も味わっていただきたい」と歓迎しました。

接岸した両岸壁では、留萌市などの特産品を販売する物産店が開かれ地域の魅力をPR、ホタテ焼きには行列ができるなど、賑わいをみせていました。

また、富良野・美瑛・旭山動物園などを観光するオプションツアーを楽しむ乗客も。

両船は13日午後6時と7時に留萌港を出港、次の寄港地へ向かいました。



留萌港に入港した「にっぽん丸」(手前)と「飛鳥Ⅱ」(奥)



お見送りの様子(飛鳥Ⅱ)



お見送りの様子(にっぽん丸)

●海の貴婦人 帆船「海王丸」が蒲郡に寄港しました！

蒲郡市 企画部 企画広報課

7月16日（水）～20日（日）にかけて、帆船「海王丸」が蒲郡に寄港しました。

今年、蒲郡市は市制施行60周年という記念すべき年を迎え、その記念事業として、平成3年以来23年ぶりの寄港となりました。

16日（水）の入港時には、近隣マリーナの有志が、それぞれのヨットやボート、ヘリコプターを出し、蒲郡航路を航行する海王丸の歓迎伴走を行いました。

また、着岸した蒲郡地区8号岸壁のエプロン上にて歓迎式典が行われ、稲葉蒲郡市長の歓迎の挨拶に続き、海王丸阪本船長の挨拶を頂きました。また、記念の盾や蒲郡温室みかんなどを、竹島水族館のマスコットキャラクター「タケアシくん」と、市内の幼稚園児たちから海王丸のクルーに贈呈しました。

18日（金）はセイルドリルを実施し、暑い中一生懸命に帆を張る実習生に、多くの声援が送られました。

19日（土）は船内見学を実施しました。来場した方は海王丸の美しい姿を写真に収めたり、実習生の熱心な説明に耳を傾けながら、船内を興味深そうに見学している姿が見受けられました。

20日（日）は最終日ということで、離岸時の「登しょう礼」では、実習生がマストに登り手を振る姿に、岸壁に訪れた多くの方が手を振って応え、海王丸との別れを惜しまました。

今回海王丸に蒲郡に寄港していただいたことで、3日間で約6千人が普段は縁遠いみなとを訪れ、海王丸と竹島の美しいコントラストなどを見て、甲板に上がり実際に船に触れて、楽しそうにしている姿がとても印象的でした。これを機会に、蒲郡のみなとが更に活性化し、にぎわいあふれるみなとになっていくことが期待されます。



海王丸入港の様子



セイルドリルの様子

●首都直下地震に備えて日本自動車連盟（ＪＡＦ）神奈川支部と協定を締結しました

関東地方整備局

国土交通省関東地方整備局は7月16日、日本自動車連盟（ＪＡＦ）神奈川支部と「災害発生時における緊急輸送路の確保に関する協定」を締結しました。

川崎港東扇島地区の東京湾臨海部基幹的広域防災拠点（以下「東扇島防災拠点」）は、首都直下地震等の大規模災害発生時には、緊急物資の輸送拠点などとして機能することになりますが、防災拠点を含む港湾広域防災区域の緊急輸送路には、大地震により多数の車両が放置されて輸送活動の障害となることが想定されます。

今回の協定締結で、ＪＡＦ神奈川支部が専門的な資機材やノウハウでこれらの障害車両を速やかに除去することによって、輸送活動を円滑に実施することが期待されています。

協定の締結式には、ＪＡＦ神奈川支部からは行天賢次事務所長ほか、関東地方整備局からは池上副局長ほか出席しました。

締結に先立ち池上副局長は「今後発生が懸念される首都直下地震などの際に速やかな緊急輸送路啓開にご協力頂けることになった。日本自動車連盟の専門性に期待します。防災訓練を通じて連携を深めながら、災害にしっかりと対応していきたい」と挨拶。行天事務所長からは「東扇島は災害時に重要な物流拠点になる。国民の皆様力になれるようこのミッションに向けて頑張っていきたい」との挨拶がありました。

関東地方整備局は、このたび協定を締結したＪＡＦ神奈川支部や、既に協定を締結済みの多くの団体とも連携して、首都直下地震等の大規模災害発生時において速やかに緊急支援物資の輸送活動が行えるよう、今後も訓練を重ねていくことにしています。



締結を終えて握手する池上副局長（左）、行天事務所長

●「2014 発見！酒田みなとの探検隊」が開催されました！

山形県港湾事務所

山形県内の小学生児童とその保護者を対象にした「発見！酒田みなとの探検隊」が7月12日、酒田港地区で開催され、参加者は、海のゴミや生き物の学習、山形県酒田海洋センターの見学、さらに定期旅客船「とびしま」に乗船しての港内見学を通じ、地域の港と海への理解を深めました。このうち定期旅客船に乗る場面には一般の方約60名も参加し、合わせて120名以上の方が参加する賑やかな行事となりました。

海のゴミ学習では、実際に捨てられていたペットボトルなどに触れ、それが魚や人体にいかにか有害であるかを知ることで、ゴミを海に捨てることの影響の大きさを学びました。海の生き物学習では、タッチプール内の海藻やヒトデなどに直に触り、その感触や動きなどに驚く様子が見られました。そして、酒田海洋センター見学では、酒田港の歴史、船舶、航海、税関業務などに関わる模型やパネルを見ながら、身近な港と海の大切さを改めて感じてくれたようです。

また、特に人気のあった定期旅客船「とびしま」の乗船体験において、参加者は、詳しくわかりやすい船内放送を熱心に聴きながら、ひとつひとつを自分の目で確かめていました。天候も台風一過の爽やかな潮風と美しい夕日という絶好の条件となり、波で船が上下するたびに大きな歓声上がるなど、感激の見学クルーズとなりました。（主催：山形県、山形県港湾協会、NPO法人酒田港女みなと会議、共催：国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所）



「2014 発見！酒田みなとの探検隊」集合写真



「海に捨てられたゴミ」学習



「海の生き物」学習



「定期船とびしま」乗船体験

●「おなはま海遊祭」が開催されました！

東北地方整備局 小名浜港湾事務所

7月26日・27日の2日間、小名浜港1・2号ふ頭において、「おなはま海遊祭」が開催されました。

27日には、当事務所も福島県・いわき市と共同で小名浜港コーナーを出展し、港の役割や現在整備中の東港地区国際物流ターミナルなどを紹介するパネル展や、通常は立ち入ることができない港内をバスで巡る小名浜港バスツアーを実施しました。

バスツアーには80名の方が参加し、臨港道路（橋梁）の工事現場や貨物船が荷役作業中の岸壁を見学。参加された方々は「港が日常生活やまちの発展に貢献していることを実感した」などの感想を話されており、港の機能や重要性について理解を深めていただいた様子でした。



現場見学の様子



熱心にパネルに見入る来場者

:

3 お知らせ

*:**

● 大阪湾生き物一斉調査 結果発表会

日時:平成26年9月23日(火・祝)

場所:大阪市立自然史博物館

<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/life/>

● 大井川港開港50周年記念式典

開催日時:平成26年11月7日(金)10時30分から

場 所:大井川港港湾会館

概 要:焼津市営の大井川港が開港50周年を迎えたことから、港湾功労者表彰、記念講演などの記念式典を行います。

E-mail : ooigawakou_kanri@city.yaizu.lg.jp

